南部中ホームページ （http://www.nanbu-chu.ed.jp/）はこちらから →

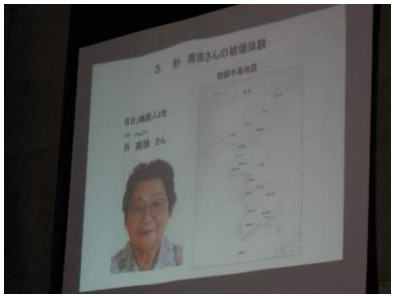
南部町立南部中学校　学校だより　第６号

チーム南部中

令和４年 ６月28日(火)
校長　望 月 和 彦

歴史を学ぶことの大切さ　戦争を繰り返さない責任

３年生の修学旅行は通常であれば広島と京都・奈良にでかけるのですが，２年前から新型コロナウイルスのために広島に行くことができず，今年度も京都と奈良のみになりました。広島に行って自分の目で原爆ドームや平和祈念資料館の展示物を見たり，被爆者の方から直接お話を聞かせてもらったりすることができず，残念な気持ちでいました。そうしたときに「被爆体験伝承者等派遣事業」の存在を知り，申し込んだところ，６月16日に２・３年生を対象に「被爆体験伝承講話」を実現することができました。被爆者の高齢化が進み，被爆体験をお話しされる方が少なくなってきている中，被爆者の体験や平和への思いを語り継ぐ者として，広島や全国各地で伝える活動をされている方々が被爆体験伝承者です。今回は遠く広島市から忍岡妙子（おしおか・たえこ）さんが，伝承者として本校に来てくださいました。



忍岡さんは講話の最初の部分で，戦時下の広島の様子，原子爆弾とはどんな兵器か，アメリカは何のために原爆を投下したのか，なぜ広島が目標になったのか，原爆が投下されるまでの流れ，原爆による犠牲者数などをスライドを使って説明してくれました。その上で，講話の中心である被爆者から受け継いだ体験談を話してくれました。忍岡さんが師匠として体験談を受け継がせてもらった方は「朴南珠（パク・ナムジュ）さん」という在日韓国人二世の方です。朴さんはお母さんと妹・弟と電車に乗っていた時に，原爆が破裂したそうです。建物はなくなり，火の海になった広島の様子，大けがをして亡くなった弟さんの様子，ドロドロの油のように降った黒い雨，河川敷で積み重ねられ焼かれていく死体，そしてその後人々に起きた放射線による健康被害など，朴さんの生々しい体験を自分のことのように丁寧に話してくれました。聞いていると悲しく，苦しくなるような内容もありましたが，生徒たちは目を見開いて真剣に聞き入っていました。朴さんは「原爆は大きな苦しみを与えましたが，私たちにとっては“ヘバン（植民地からの解放）”でもありました。戦争に正義はありません。勝っても負けても殺し合いです。戦争と核の使用は絶対にさせてはいけません。」と忍岡さんに語ったそうです。忍岡さんは最後に，ロシアのウクライナ侵攻にも触れ，現在も世界で起きている戦争とそのために製造されている核兵器の現状を伝えながら，生徒たちに２つのお願いをしました。一つは**「このような悲劇を繰り返さないように，歴史をしっかり勉強してください。」**ということ。もう一つは**「原爆が投下された戦争の責任はあなたたちにはありません。でも，あなたたちには戦争をくりかえさせず，平和を守っていくという責任があります。」**ということ。

講話の後，私は忍岡さんから，講話の原稿は３年間に渡って，朴さんから丁寧に聞き取りを行い，一緒に現場に行って状況を教えてもらうなどして作られていること。作った原稿案は，歴史研究の専門家に渡して事実と反する部分があった場合は修正してもらい，最後に朴さん自身に聴いてもらって完成させたことなどを教えてもらいました。そのようにしてできた講話の内容は理路整然としており，生徒たちにもわかりやすい表現になっていました。２時間という長い講話でしたが，生徒たちはみな忍岡さんの話に聞き入っていて，本や映像では感じられない戦争や原爆の恐ろしさと平和の大切さを学ぶことができました。

１学年福祉学習「認知症サポーター養成講座」

この時期の１年生は，本来なら，福祉施設について学習したあと，南部町や身延町の福祉施設を訪問して，お年寄りや施設利用者の方とのふれあう体験学習を行ってきました。しかし，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，今年度は形を変えて福祉の学習に取り組んでいます。その一つとして，６月２１日（火）５，６校時に，「認知症サポーター養成講座」を開きました。社会福祉協議会・福祉保健課より８名のキャラバンメイト（「認知症」についての研修し，地域のリーダー役となる役割が期待される方）を講師として招きました。講座前半は，認知症の種類や仕組みをスライドを見ながら説明していただき，途中のリフレッシュタイムでは，左右異なる動作の手の体操，左右両手で同時に描く鏡文字の描写など，認知症予防のために脳の活性化を促すトレーニングを教わりました。後半は，１年部の教員の寸劇を題材に，認知症の方に対して「自分ならどうするか？」「どうすることが大切なのか？」をグループで考え，発表し合いました。感想発表してくれた１Ａの青山圭悟さん，１Ｂの後藤愛莉さん，また，生徒の振り返りからも，「認知症についてよくわかった。」「お年寄りには優しく接したい。」「今日教わったことを家族に伝えたい。」など，とても前向きな意見がありました。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう，次代を担う中学生が認知症の正しい知識や支援方法を知ることは，とても大切なことだと思いました。　講座の終わりに，「認知症サポーター」の証として，オレンジリングを全員にいただきました。（１年主任山本）

※認知症サポーターの活動とは？

認知症サポーターは，何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し，偏見を持たず，認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」です。その上で，自分のできる範囲でサポーターとして活動しています。認知症サポーター養成講座で得た知識を生かし，近所で気になることがあればさりげなく見守る，まちなかで困っている人がいたら手助けすることも立派な活動の一つです。

親子進路学習「高校説明会」

より良い進路を実現させていくためには，①自分の学びたいことややりたいことを把握すること。②自分の適性を把握すること。③それぞれの進学先の情報を集め，特色を知ること。④ふさわしい学力をつけること。などが大切になります。③のために，６月２３日（木）３年生とその保護者を対象にした親子進路学習「高校説明会」を開催しました。３年生の現在の進路希望や過去の卒業生の進学者数を考えて，７つの高校の先生に来ていただき，それぞれの高校の教育内容や特色，進路状況などを説明していただきました。今後は，体験入学や学校説明会が高校ごとに開催されます。様々な情報を集めて，自分に最もふさわしい進路先を見つけて欲しいともいます。

地域とともにある学校づくり

コロナのために延期になっていた「第１回学校運営協議会」を６月１７日に開催しました。本校はコミュニティ・スクールとして，地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。その中核となる組織で，学校運営に地域住民や保護者の方々の意見を取り入れたり，地域人材や地域素材を活用した教育活動を推進したりするための組織が学校運営協議会です。任期は２年で，新任の５名の委員さんを含めて１１名の委員さんで構成されています。今回の話し合いの中で渡辺拓雄会長，望月小五郎副会長の新役員が決定し，学校経営方針が承認されました。学校の教育活動を支援するご意見や課題解決のためのご意見などをいただくことができました。今後の学校経営に役立てていきます。